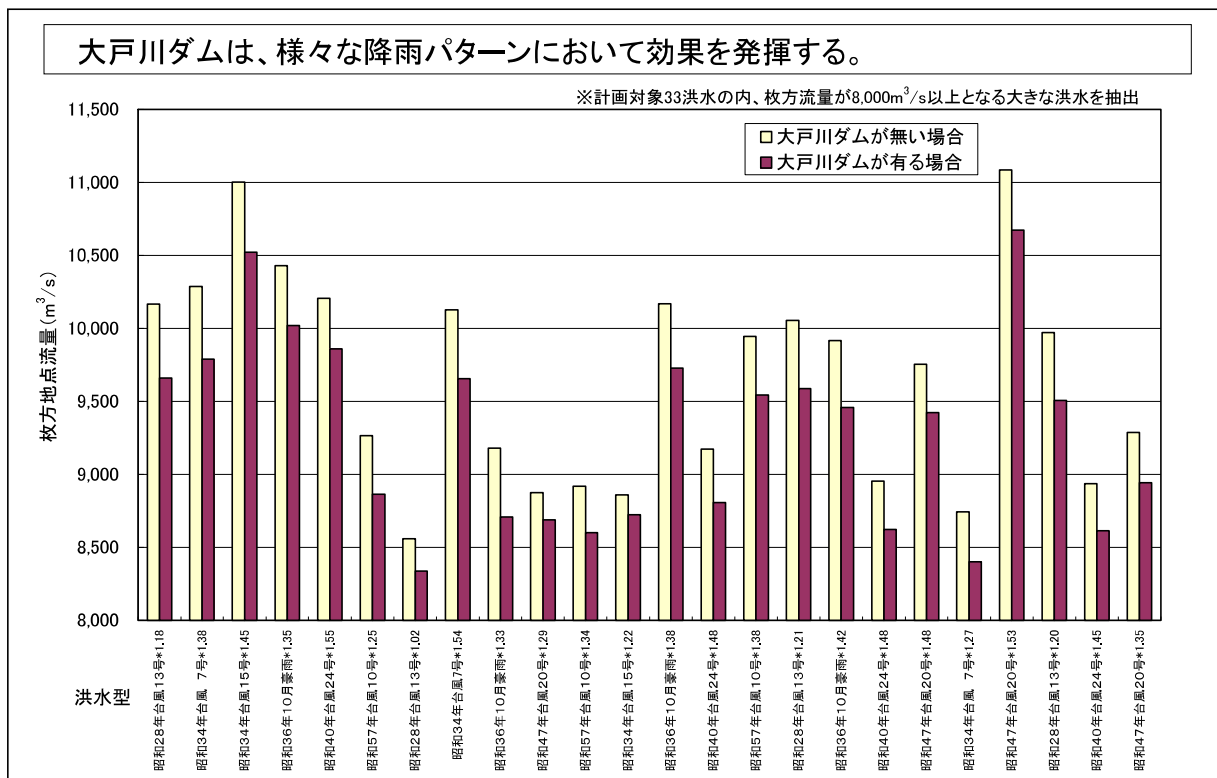


質問 8-2 淀川水系流域委員会は、ダムの効果は限定的と指摘されていますが、近畿地方整備局自身もそのような資料を提示しているのではないのでしょうか。

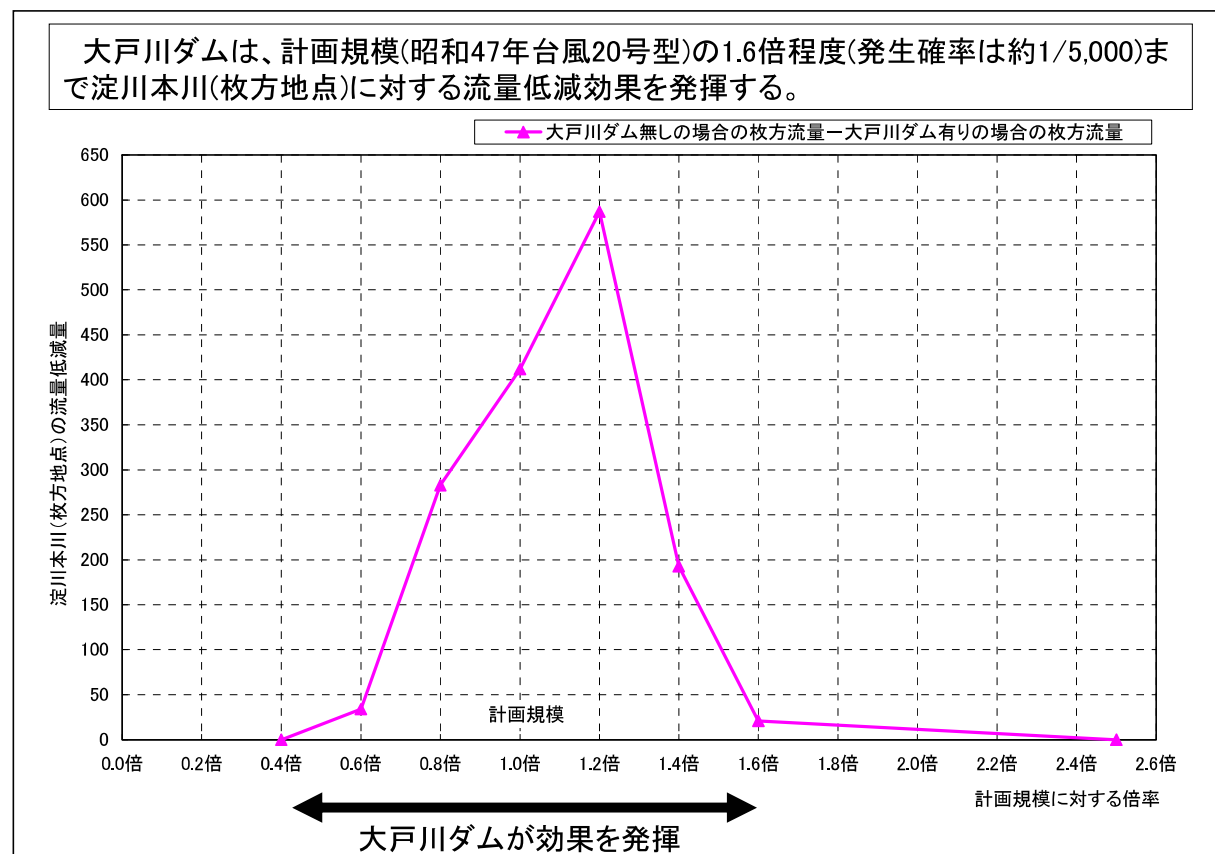
(回答)

- 淀川水系流域委員会(以下、流域委員会と言う。)は、検証に用いた 33 洪水のうち計画高水位以下に低下させるのは 2 パターンだけであること、またその 2 パターンの水位低減効果も 19cm であること、さらにその 2 パターンにおいても雨が数%大きくなることで計画高水位以下に抑えることはできないことの 3 点をもって、ダムの効果は「限定的」としてはいますが、この指摘は問題の本質を見誤っています。

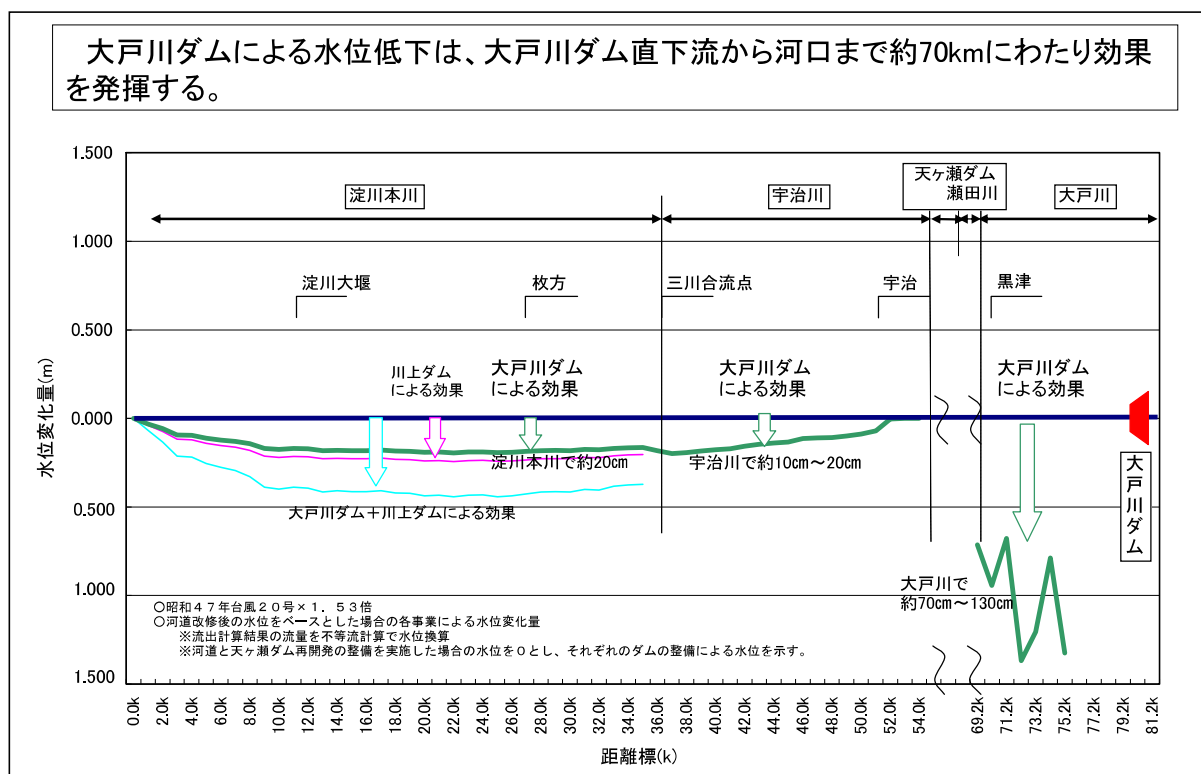


- 検証に用いた 33 洪水は、広大な流域を持ち、宇治川、木津川、桂川の三川が合流して淀川本川につながるという淀川水系の地形特性と降雨分布特性を考慮して選定した洪水です。
- 現況においては中上流の整備水準が低いため洪水氾濫が発生することもあり、結果として淀川本川においては 33 洪水全てを計画高水位以下で安全に流下させることが可能となっています。

- 淀川水系河川整備計画(案)においては、淀川水系河川整備基本方針を踏まえて、「整備のいかなる段階において、計画規模以下の洪水に対しては、淀川本川の水位が計画高水位を超過しないよう水系全体の整備を進める。」という、上下流バランスの基準を設定しており、それを達成するためには、この計画規模 33 洪水のすべてを計画高水位以下で安全に流下させる必要があります。そのため、2 パターンだけなら計画高水位を超過しても良いという計画は策定できません。
- また、先に述べました地形的特性と降雨分布特性を考慮してダムを適切に配置する必要がありますがあり、一つ一つのダムの治水効果を淀川本川の水位低下効果で評価すれば十から数十 cm 程度にとどまりますが、これらが集まって効果を発揮するものです。
- 一方、超過洪水に対しても、大戸川ダムは、計画規模(昭和 47 年台風 20 号型)の 1.6 倍程度まで、淀川本川(枚方地点)に対する流量低減効果を発揮します。



- なお、ダムは、ダム直下から河口に至るまでの全ての区間において水位低下効果があることから、河川改修による影響をできる限り下流に及ぼさないためには河道整備に先行してダムを整備する方が有利です。



(関連資料)

- 平成20年1月29日 第71回淀川水系流域委員会 審議参考資料2
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index20.html#71th>
- 平成20年3月11日 第74回淀川水系流域委員会 審議参考資料1
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index20.html#74th>
- 平成20年4月9日 第76回淀川水系流域委員会 審議参考資料1-1
<http://www.yodoriver.org/kaigi/iin/index20.html#76th>

※本質問は、平成20年8月25日に開催された滋賀県議会「琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会」において、滋賀県から寄せられた質問に対して近畿地方整備局から回答した内容を中心に整理したものです。なお、現在は時点更新も含め内容を精査しており、最新の情報ではない場合があります。